

授 業 概 要

平成27年度

群馬医療福祉大学 大学院
社会福祉学研究科

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

| | |
|---------------------|-------|
| 福祉倫理特論 | 1 |
| 社会福祉原理特論 | 2 |
| 社会福祉理論・学説史研究 | 3 |
| 社会福祉経営特論 | 4 |
| 社会福祉法制特論 | 5 |
| 高齢者福祉特論 | 6 |
| 障害者福祉特論 | 7 |
| 児童福祉特論 | 8 |
| 比較（国際）福祉特論 | 9 |
| 福祉心理特論 | 10 |
| 福祉サービス市場特論 | 11 |
| 社会調査特論 | 12 |
| 社会福祉経営研究・演習 | 13 |
| 福祉事業経営特論 | 14 |
| 福祉施設経営特論 | 15 |
| 人事労務管理特論 | 16 |
| 福祉事業経営研究・演習 | 17 |
| 地域福祉経営特論 | 18 |
| 社会福祉行財政特論 | 19 |
| 地域福祉計画特論 | 20 |
| 地域福祉経営研究・演習 | 21 |
| ソーシャルワーク特論Ⅰ | 22 |
| ソーシャルワーク特論Ⅱ | 23 |
| ケアマネジメント特論 | 24 |
| ソーシャルワーク研究・演習 | 25 |
| 修士論文研究指導の概要 | 26～27 |

教育課程等の概要（平成27年度）

社会福祉学研究科 社会福祉経営専攻

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | | 1年 | | 2年 | | 担当教員 |
|----------|----------------------|-----|----|----|----|----|----|---|
| | | 必修 | 選択 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 共通基礎分野 | 福祉倫理特論 | 2 | | ● | | | | 中田・鈴木 笹澤 笹澤 中熊 円井 黒澤 木下・遠藤 江島 木下・遠藤 川村 大野 瓜巢 白石 中熊 |
| | 社会福祉原理特論 | 2 | | ● | | | | |
| | 社会福祉理論・学説史研究 | 2 | | | ● | | | |
| | 社会福祉経営特論 | 2 | | ● | | | | |
| | 社会福祉法制特論 | | 2 | | ○ | | | |
| | 高齢者福祉特論（隔年・H28年度開講） | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 障害者福祉特論（隔年） | | 2 | | ○ | | | |
| | 児童福祉特論 | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 精神保健特論（隔年・H28年度開講） | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 比較（国際）福祉特論（隔年） | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 福祉心理特論 | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 福祉サービス市場特論 | | 2 | | ○ | | ○ | |
| | 社会調査特論 | 2 | | ● | | | | |
| | 社会福祉経営研究・演習 | 2 | | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | |
| 小計（14科目） | | 12 | 16 | | | | | |
| 福祉事業分野 | 福祉事業経営特論 | | 2 | | ○ | | | 科目担当教員 瓜巢 森田 科目担当教員 |
| | 福祉施設経営特論 | | 2 | | ○ | | | |
| | 人事労務管理特論 | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | 福祉事業経営研究・演習（隔年） | | 2 | △ | △ | △ | △ | |
| | 小計（4科目） | | | 8 | | | | |
| 地域福祉分野 | 地域福祉経営特論 | | 2 | ○ | | | | 笹澤 高井 川村 笹澤 |
| | 社会福祉行財政特論 | | 2 | | ○ | | | |
| | 地域福祉計画特論（隔年・H28年度開講） | | 2 | ○ | | ○ | | |
| | 地域福祉経営研究・演習 | | 2 | △ | △ | △ | △ | |
| | 小計（4科目） | | | 8 | | | | |
| 福祉援助技術分野 | ソーシャルワーク特論Ⅰ | 2 | | ● | | | | 新木 真下 國光 科目担当教員 |
| | ソーシャルワーク特論Ⅱ | 2 | | | ● | | | |
| | ケアマネジメント特論 | | 2 | | ○ | | | |
| | ソーシャルワーク研究・演習 | | 2 | △ | △ | △ | △ | |
| | 小計（4科目） | | 4 | 4 | | | | |
| 論文 | 修士論文研究指導 | 6 | | ● | ● | ● | ● | 鈴木 |
| | | | | ● | ● | ● | ● | 中田 |
| | | | | ● | ● | ● | ● | 笹澤 |
| | | | | ● | ● | ● | ● | 大野 |
| | | | | ● | ● | ● | ● | 江島 |
| | | | | ● | ● | ● | ● | 白石 |
| | 小計（1科目） | | 6 | | | | | |
| 合計（26科目） | | 22 | 36 | | | | | |
| 学位又は称号 | 修士（社会福祉学） | | | | | | | |

※●は必修、▲は必修演習、△は選択演習

授業科目

■ 福祉倫理特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 中田 勝 ・ 鈴木 利定 |
| 開講期 | 1 年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠（良知）が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体力行を重んずる人を育てることを主眼とする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善悪の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の錬成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 オリエンテーション : 講義内容の説明</p> <p>【第2回】 当校、伝統の建学精神 : 当校の礎と学統</p> <p>【第3回】 〃 : 提言字の解義</p> <p>【第4回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第5回】 当校の教育理念 : 理気説の提言 (1)</p> <p>【第6回】 〃 : 理気一元説の導入 (2)</p> <p>【第7回】 〃 : 提言字の本義</p> <p>【第8回】 〃 : 現代的意義</p> <p>【第9回】 儒教倫理 : 特色</p> <p>【第10回】 儒教倫理 (1) : 特性 (1)</p> <p>【第11回】 儒教倫理 (2) : 特性 (2)</p> <p>【第12回】 家庭生活と倫理の発現 : 倫理思想の体認</p> <p>【第13回】 家庭生活と倫理の発現 : 〃</p> <p>【第14回】 社会生活と倫理の発現 : 同上及び建学精神、教育理念の体認</p> <p>【第15回】 職業と人生 (就業規則と職業倫理を含む) : 当校、諸学部諸学科の顕彰</p> |
| 受講生への要望 | 仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。 |
| 評価の方法 | 授業時の出席点（出欠席回数による）は最高で10点、平常点は最高で5点、期末筆答試験は最高で85点、総合点100点満点となります。 |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著</p> <p>参考書 随時指示</p> |

授業科目

■ 社会福祉原理特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 笹澤 武 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 授業計画、参考文献、資料収集</p> <p>【第2回】 社会福祉の用語変遷（福祉概念の発展）</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本前提（生物、文化社会的面）</p> <p>【第4回】（人間存在としての生など）</p> <p>【第5回】（現代社会福祉理念の諸問題）</p> <p>【第6回】（個の確立）</p> <p>【第7回】（国家福祉の理念）</p> <p>【第8回】（人間的理念：人権、個人の尊厳、生命の尊厳）</p> <p>【第9回】（人間的理念：平等の理念、自由の理念、自立の理念）</p> <p>【第10回】（愛他理念：理念と展開）</p> <p>【第11回】 社会保障、社会福祉の理念をさぐる</p> <p>【第12回】 20、21世紀の福祉理念</p> <p>【第13回】 わが国の憲法の示す福祉理念</p> <p>【第14回】 行政の示す社会福祉</p> <p>【第15回】 講義のふりかえり</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p> |
| 受講生への要望 | |
| 評価の方法 | 発表（30%）・レポート提出（70%）等を総合的に評価する。 |
| テキスト・参考書 | <p>【参考文献】</p> <p>「社会福祉の発見」 あいり出版</p> <p>「生命倫理」 弘文堂</p> <p>その他</p> |

授業科目

■ 社会福祉理論・学説史研究

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 笹澤 武 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <p>絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。</p> <p>その考え方の背景に人間らしく生きるための思想（考え方）や実践を取り上げてみる。</p> |
| 授業計画 | <p>【第1回】 授業のためのオリエンテーション</p> <p>【第2回】 現実から（考究の）出発</p> <p>【第3回】 〃</p> <p>【第4回】 〃</p> <p>【第5回】 〃</p> <p>【第6回】 福祉学への接近</p> <p>【第7回】 〃</p> <p>【第8回】 人生（生涯生活）と福祉</p> <p>【第9回】 〃</p> <p>【第10回】 福祉の援助と人間福祉の目標</p> <p>【第11回】 〃</p> <p>【第12回】 公共にとって社会福祉学とは</p> <p>【第13回】 〃</p> <p>【第14回】 〃</p> <p>【第15回】 授業の振り返り</p> <p>* シラバスのテーマや順序を変更することもある</p> |
| 受講生への要望 | 文献を読み意見を述べ合って、学問を自らのものにして欲しい。 |
| 評価の方法 | 発表（30%）・レポート提出（70%）で総合的に評価する。 |
| テキスト・参考書 | <p>【参考書】</p> <p>国代国次郎「社会福祉学とは何か」 本の泉社</p> <p>杉本一義「人生福祉」 駿河台出版社</p> |

授業科目

■ 社会福祉経営特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 中熊 靖 |
| 開講期 | 1 年次 |
| 単位 | 2 (必修) |
| 学修目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉マネジメントの実践において応用できるさまざまな手法を具体的に学ぶ。 ・ 顧客満足の基礎となるサービスの質の向上とサービスの品質管理について学ぶ。 ・ スタッフが能力を発揮して意欲的に働くために、採用から研修、労務管理のあり方を学ぶ。 ・ 健全経営を確保するために、経営管理者の立場で実践すべきことを理解する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <p>本講座は、社会福祉事業の経営環境の変化とその中で存続発展するための経営のあり方を学習する。</p> <p>福祉事業の中で経営管理者として活躍するために、理解し、身につけておくべきことを具体例を通じて学んでいく。</p> |
| 授業計画 | <p>【第1回】 福祉事業の経営環境とマネジメント</p> <p>【第2回】 経営管理者の役割</p> <p>【第3回】 経営理念と経営戦略</p> <p>【第4回】 顧客の満足① 顧客の理解、顧客のニーズの把握とその充足</p> <p>【第5回】 顧客の満足② サービスの質の管理、情報開示、権利の擁護</p> <p>【第6回】 顧客の満足③ 福祉事業におけるマーケティング</p> <p>【第7回】 スタッフの満足① 人材の確保、処遇システム、目標管理</p> <p>【第8回】 スタッフの満足② 人事考課、研修システム</p> <p>【第9回】 業務の管理① 組織、業務の標準化</p> <p>【第10回】 業務の管理② 業務の効率化、コミュニケーション</p> <p>【第11回】 健全経営の確保① 法令・倫理の遵守、財務体質の強化</p> <p>【第12回】 健全経営の確保② 収入の確保と損益管理</p> <p>【第13回】 健全経営の確保③ 事業収支シミュレーション</p> <p>【第14回】 マネジメント・スキル① 人事労務管理</p> <p>【第15回】 マネジメント・スキル② 財務会計管理</p> |
| 受講生への要望 | <p>マネジメントの基礎理論を理解するとともに、その福祉事業への適用を学習する。紹介する参考図書を事前に学習することを期待する。</p> |
| 評価の方法 | <p>出席状況 30%、学習態度 20%、試験等 50%。</p> |
| テキスト・参考書 | <p>基本教材として必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考図書は授業において紹介する。</p> |

授業科目

■ 社会福祉法制特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 円井 義弘 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 戦後日本の社会福祉政策について、政策と政策過程の視点から考察し、社会福祉法制について理解を深める。主要な社会福祉関係法律・政策について、その成立背景、目的、理念、法制に関わったアクター等を考察し、学修する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 社会福祉法制に関する法律・政策について、その成立背景、目的、理念、そしてその成立に関与したアクター（各種団体など）に注目しながら考察し、日本の社会福祉法制の理念、特徴などを明らかにする。理論研究だけでなく、具体的事例研究も平行して進めたい。 なお、本講義は、法の内容そのものよりも、政策過程や立法プロセスの視点からの内容である。 |
| 授業計画 | 【第1回】 現代の社会福祉 【第2回】 社会福祉政策とは何か 【第3回】 社会福祉・社会保障の理念（1） 【第4回】 社会福祉・社会保障の理念（2） 【第5回】 社会福祉法制とは何か 【第6回】 社会福祉法制の構造（対象者別） 【第7回】 社会福祉法制の歴史 【第8回】 社会福祉と行政 【第9回】 社会福祉と財政 【第10回】 社会福祉と主体 【第11回】 社会福祉法制の展開（低所得者、子ども家庭） 【第12回】 社会福祉法制の展開（障がい者、高齢者） 【第13回】 社会福祉法制の動向（1） 【第14回】 社会福祉法制の動向（2） 【第15回】 後期内容の総括 |
| 受講生への要望 | 授業は講義とゼミ形式で進めるので、主体的、積極的に取り組んで欲しい。 |
| 評価の方法 | 学習態度（発言）50%、レポート50%。 |
| テキスト・参考書 | 【参考書】 福永善秀編『社会福祉の発見』（あいり出版、2009年）、 坂田周一『社会福祉政策』（有斐閣アルマ、2007年）、 福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉概論』（中央法規出版、2008年）、 中村昭雄『新版 日本政治の政策過程』（芦書房、2011年） |

授業科目

■ 高齢者福祉特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 黒澤 貞夫 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 生活支援論を人間科学の視点から講じる。生活支援の専門性を理論と実践の統合によって体系づけることを目標とする。生活支援は21世紀における社会福祉の新たな思想に基づく福祉制度をふまえて、いかに人間の幸せを実現するかを理念的・実践的な課題をもって考察するのである。そのためには専門性の構成要素であるヒューマニティ（人間性）とサイエンス（科学性）が現実の生活課題の解決にいかにか統合され実践されるかを理論的・実証的に講じる。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 講義の内容は、まず社会の現実の認識からである。人びとが老い、病、心身の障害等に起因して生活の支障（困難）を生じていることを認識する。そして生活支援は、人間の尊厳が保持され健康で文化的な生活を享受することの意義と現実の生活課題の解決を図ることについて講じる。そのことは人間科学的な根拠（エビデンス）をもった生活支援について価値・倫理・知識・技術（方法）の視点から講じる。特に講義においては、実践の場面から理論と実践の融合を実証的に講じる。 わが国の福祉制度には、ソーシャルワーク、ケアワーク、ケアマネジメント等の専門領域が存在する。そしてそれぞれの業務の専門的特性を講じる。特に専門領域における保健・医療・福祉との連携・協働の知識・方法についても講じる。これらの専門性と固有の存在理由は人間科学の視点に基づく質的研究によってさらに深められ実証されていくことを講じる。 |
| 授業計画 | 【第1回】 生活支援の理論と人間科学 【第2回】 生活支援における人間科学の意味 【第3回】 生活システムの科学性 【第4回】 人間理解と関係性 【第5回】 人間理解とコミュニケーション 【第6回】 自立支援の基礎理論 【第7回】 ICF（国際生活機能分類）と生活支援モデル 【第8回】 生活支援におけるニーズ論 【第9回】 生活支援の展開方法の科学性～相談：アセスメント 【第10回】 生活支援の展開方法の科学性～生活支援計画・実践・評価 【第11回】 人間科学におけるソーシャルワーク論 【第12回】 人間科学におけるケアワーク（介護福祉）論 【第13回】 人間科学におけるケアマネジメント論 【第14回】 事例による質的研究の方法 【第15回】 事例による質的研究の方法 |
| 受講生への要望 | 講義はテキストと文献を用います。それらを日々予習、復習しておくことが有益です。特に講義等で意味の不確かなところや疑問については、文献を参照し質問などによって自ら学ぶ態度が求められます。 |
| 評価の方法 | 基準：出席点30点、授講態度10点、レポート、定期試験、発表等60点 |
| テキスト・参考書 | [テキスト] ・黒澤貞夫著「人間科学的生活支援論」ミネルヴァ書房2010年 [参考書] ・黒澤貞夫著「生活支援学の構想」川島書店2006年 ・黒澤貞夫編著「ICFを取り入れた介護過程」2007年 その他必要な参考書、文献は講義時にその都度示す。 |

授業科目

障害者福祉特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 木下 大生 ・ 遠藤 浩 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 障害のある人たちの「人生とは？」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行推進の視点から、これまでの障害者政策を顧み、これからの障害者政策を考える。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行の推進の視点から、これまでの障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手掛かりとしつつ、いわゆる「コロニー」と称される大規模収容保護施設実現に至る道のり、地域移行への方向転換、障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、障害者自立支援法に代わる新たな総合法制度の検討状況を踏まえながら、今後の地域移行の展開を予測する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 障害者福祉政策の系譜</p> <p>【第3回】 ノーマライゼーション理念</p> <p>【第4回～第6回】 我が国におけるコロニー実現に至る道のり</p> <p>【第7回】 施設の整備推進と在宅福祉施策の萌芽</p> <p>【第8回・第9回】 地域移行の基盤整備の緩やかな進展</p> <p>【第10回・第11回】 地域移行の実践例を学ぶ</p> <p>【第12回】 施設解体宣言を考える</p> <p>【第13回・第14回】 障害者自立支援法による地域移行の推進</p> <p>【第15回】 検討中の新たな総合法制度と地域移行</p> |
| 受講生への要望 | 法令、行政資料、審議会答申、関係論文等を引用した講義資料を予め配布しますので、これらをよく読みこなし、自らの考えを積極的に発言していただくことを期待します。 |
| 評価の方法 | 基準：出席点30点、受講態度10点、レポート60点 |
| テキスト・参考書 | <p>【参考書】</p> <p>「障害者福祉の世界」佐藤久夫・小澤温（有斐閣アルマ）</p> <p>「現代の障害者福祉（改訂版）」定藤丈弘・佐藤久夫・北野誠一編（有斐閣）</p> <p>「再考・ノーマライゼーションの原理」ベンクト・ニリエ（現代書館）</p> <p>「社会福祉政策」坂田周一（有斐閣アルマ）</p> <p>※その他随時紹介します。</p> |

授業科目

■ 児童福祉特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 江島 正子 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 児童福祉の理念はこどもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。こどもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、こどもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照にしながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 小さく幼いこどもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 自己紹介 児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート</p> <p>【第2回】 アンケートの結果とわが国における幼いこどもの保育の歩み</p> <p>【第3回】 乳幼児の人間形成における世界の歩み</p> <p>【第4回】 近代史にみる保育思想史</p> <p>【第5回】 ロバート・オーエン フリードリッヒ・フレーベル エレン・ケイ</p> <p>【第6回】 マリア・モンテッソーリ Casa dei bambini</p> <p>【第7回】 ディベート</p> <p>【第8回】 児童福祉とは何か 児童福祉の理念と歴史 児童福祉の定義 保育と児童福祉</p> <p>【第9回】 児童福祉の分野 児童福祉の理念 日本国憲法</p> <p>【第10回】 児童福祉法 児童福祉の理念 児童福祉の法的根拠づけ 保育の理念</p> <p>【第11回】 わが国の児童福祉の歴史 明治期の児童福祉 大正期の児童福祉 昭和期の児童福祉</p> <p>【第12回】 平成期の児童福祉 今日児童福祉に登場した諸問題</p> <p>【第13回】 家庭環境をめぐる環境の変化 児童の権利擁護</p> <p>【第14回】 こどもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉</p> <p>【第15回】 まとめ</p> |
| 受講生への要望 | <p>欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。ディベートや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。</p> <p>講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。</p> |
| 評価の方法 | 定期試験 授業の出席率 出席の態度 ディベートの参加 ミニレポートの提出 自分の意見の発表などで総合的に評価する。 |
| テキスト・参考書 | <p>才村 純 編著 『保育者のための児童福祉論』 樹村房</p> <p>江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社</p> <p>マリア・モンテッソーリ著 『モンテッソーリの実践理論ーカルフォルニア・レクチャ』 サンパウロ社</p> |

授業科目

■ 比較（国際）福祉特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 川村 匡由 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 各国の社会保障を比較し、わが国の課題を提起する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 国連など国際機関の役割や先進国、新興国、途上国の社会保障・社会福祉の比較研究を行う。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 本科目の履修の動機と自己紹介 【第2回】 国家社会保障・社会福祉から国際社会保障・社会福祉へ 【第3回】 国連など国際機関の役割 【第4回】 NGOなど国際民間機関の役割 【第5回】 先進国・新興国・途上国の現状 【第6回】 グローバリゼーションとナショナリズム 【第7回】 これからの国際関係と日本 【第8回】 社会保障・社会福祉の国際比較① 【第9回】 社会保障・社会福祉の国際比較② 【第10回】 社会保障・社会福祉の国際比較③ 【第11回】 社会保障・社会福祉の国際比較④ 【第12回】 社会保障・社会福祉の国際比較⑤ 【第13回】 フリーターキング① 【第14回】 フリーターキング② 【第15回】 まとめ</p> |
| 受講生への要望 | 国際関係に常に関心を持って臨んでほしい。 |
| 評価の方法 | 基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点 |
| テキスト・参考書 | 川村匡由編著・国際社会福祉論・ミネルヴァ書房 川村匡由編著・スイスになぜ「限界集落」がないのか・農文協 |

授業科目

福祉心理特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 大野 俊和 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 福祉心理学の概要を学ぶとともに、当該領域の研究論文を読み、重要情報の読み取り方、レジュメの作成方法を学ぶ。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 福祉心理学はきわめて新しい学問である。そのため、この学問は統一したメタ理論や問題意識をもっておらず、社会福祉に関連するテーマをもつ臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学の知見を寄せ集めた段階である。そのため、本講義では、発達心理学、認知心理学、社会心理学での関連基本概念を紹介した後に、社会福祉と結びついた個々の研究例を紹介していく予定である。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第3回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第4回】 発達心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第5回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第6回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第7回】 認知心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第8回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第9回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第10回】 社会心理学的アプローチからの福祉心理学・論文購読</p> <p>【第11回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第12回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第13回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第14回】 研究文献の紹介・発表</p> <p>【第15回】 まとめ</p> |
| 受講生への要望 | レジュメを事前に参加人数分用意しておくこと。 |
| 評価の方法 | 授業内コメント30点、授業内レジュメ50点、レポート20点 |
| テキスト・参考書 | 授業内で適宜指示する。 |

授業科目

■ 福祉サービス市場特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 瓜巢 一美 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 福祉サービス市場の中でも、高齢者サービス市場は介護保険制度が2000年に発足し非営利団体、民間事業者によるサービス供給はめざましいものがある。また、介護サービス以外の健常高齢者向けサービスも大きな市場成長が見込まれる。この点について学ぶ。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業経営の歴史 2. 世界の先進国におけるシルバーサービス 3. 福祉事業経営の現状 (まちづくり、フィットネスクラブ、カルチャーセンター、在宅介護、高齢者住宅、有料老人ホームなど) 4. 福祉事業経営の組織と経営 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 福祉事業経営の歴史 (その1)</p> <p>【第2回】 福祉事業経営の歴史</p> <p>【第3回】 福祉事業経営の歴史</p> <p>【第4回】 福祉事業経営の歴史</p> <p>【第5回】 世界の先進国におけるシルバーサービスの事例 (アメリカを中心として)</p> <p>【第6回】 福祉事業経営の現状 (その1)</p> <p>【第7回】 福祉事業経営の現状 (その2)</p> <p>【第8回】 福祉事業経営の現状</p> <p>【第9回】 福祉事業経営の現状 (その3)</p> <p>【第10回】 福祉事業経営の現状 (経営・管理の方法)</p> <p>【第11回】 福祉事業経営の現状 (人事管理など)</p> <p>【第12回】 福祉事業経営の現状 (財務・会計など)</p> <p>【第13回】 福祉事業経営の現状 (情報・戦略的広報)</p> <p>【第14回】 福祉事業経営の課題</p> <p>【第15回】 福祉事業経営の将来</p> |
| 受講生への要望 | 民間のシルバーサービスの歴史は浅く、専門的分野の領域のように思われているが、福祉事業分野で民間事業者のウエイトが拡大しているため重要な授業科目である。 |
| 評価の方法 | 講義の受講とディスカッションへの参加20、及びテストでのレポートの提出による評価80 |
| テキスト・参考書 | <p>【テキスト】</p> <p>・「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版</p> <p>【参考書】</p> <p>・講義時に関係文献等を紹介</p> |

授業科目

■ 社会調査特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 白石 憲一 |
| 開講期 | 1 年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的考え方の理解。 ・ 統計分析の手法の習得。 ・ データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・ データ分析の進め方の習得。 ・ 統計ソフトの操作の習熟。 ・ 統計理論の習得。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <p>本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。</p> |
| 授業計画 | <p>【第1回】 イントロダクション 【第2回】 統計分析の進め方 【第3回】 データの収集と編成 【第4回】 グラフ表現 【第5回】 統計ソフトの基本操作 【第6回】 データのばらつき 【第7回】 データの操作と比較 【第8回】 散布図と相関係数 【第9回】 データの品質 【第10回】 クロス集計表と仮説検定 【第11回】 平均値の差の検定 【第12回】 回帰分析（1） 【第13回】 回帰分析（2） 【第14回】 統計分析プロジェクト（1） 【第15回】 統計分析プロジェクト（2）</p> |
| 受講生への要望 | <p>修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。</p> |
| 評価の方法 | <p>出席状況 20%、学習態度 20%、試験等 60%</p> |
| テキスト・参考書 | <p>基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。</p> |

授業科目

社会福祉経営研究・演習

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 中熊 靖 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 (必修) |
| 学修目標 | 社会福祉経営特論と相俟って、社会福祉経営論の具体的内容を文献及び実例などにより明らかにし、履修生が社会福祉経営論の理論と実際を修得することを目標とする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <ul style="list-style-type: none"> ① 社会福祉の経営環境の変化とそれに対する福祉の諸制度の変遷について学習する。 ② マネジメントについて P.F.ドラッカーの理論を中心に学ぶ。 ③ 社会福祉事業をめぐる制度の今後のあり方・方向性について理解する。 ④ 社会福祉事業を担う各種法人の性格と公益法人制度改革について学習する。 ⑤ 履修する各人が関心を持つ事業について、その経営実態とあるべき姿を自らの研究によって探求する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回～第5回】 社会福祉事業の経営と運営をめぐる論点を整理し、その今日的意義を探る。参考文献を読んで各人が自分のとらえ方を発表し相互討議を行う。</p> <p>【第6回～第10回】 P.F.ドラッカーのマネジメントに関する著書を分担して読み、マネジメントの本質を理解する。</p> <p>【第11回～第15回】 高齢者福祉、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、子ども家庭福祉等福祉の各分野の制度を整理し、それぞれの事業経営環境の変化を理解する。</p> <p>【第16回～第18回】 社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人や民間企業等社会福祉事業を担う各種法人の特性を理解する。特に、公益法人制度改革の意義について理解する。また今後重要な役割を果たすと考えられる地域住民によるボランティア活動の活性化策について考える。</p> <p>【第19回～第30回】 各人が選択する社会福祉事業について、その歴史と具体的事例の経営実態を調査し、あるべき姿を探求する。それぞれの研究の進捗状況に応じて中間報告と最終報告を行う。</p> |
| 受講生への要望 | 指定の文献・資料について事前学習を期待したい。 |
| 評価の方法 | 出席状況30%、演習での発表や学習態度20%、学年末のレポート50%を目途に評価する。 |
| テキスト・参考書 | <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「マネジメント」P.F.ドラッカー ダイアモンド社 ② 社会福祉の動向2015年版 ③「ゼミナール経営学入門」伊丹敬之、加護野忠男 日本経済新聞出版社 |

授業科目

■ 福祉事業経営特論（内容変更の場合あり）

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 科目担当教員 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 福祉事業を担う民間事業者の動きは本格的にはまだ20年程の浅い歴史的ポジションであるが、産業としての比重は高い。そこで、福祉事業経営の基本的コンセプト、リスクマネジメント、運営管理、資金調達等の基本を学ぶ。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業経営の変遷 2. 行政と福祉事業経営 3. 福祉事業経営の労務管理 4. 福祉事業の経営実態 5. 福祉事業経営とリスクマネジメント 6. 福祉事業経営の運営管理 7. 福祉事業経営の将来と課題 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 福祉事業経営の変遷</p> <p>【第2回】 行政と福祉事業経営（予算の決定）</p> <p>【第3回】 行政と福祉事業経営（許認可システム）</p> <p>【第4回】 福祉事業経営の決算書の読み方</p> <p>【第5回】 福祉事業の労務管理</p> <p>【第6回】 民間介護事業における労務管理の現状</p> <p>【第7回】 在宅介護事業の経営実態、特別養護老人ホームの経営実態</p> <p>【第8回】 有料老人ホームの経営実態</p> <p>【第9回】 福祉事業経営とリスクマネジメント－I</p> <p>【第10回】 福祉事業経営とリスクマネジメント－II</p> <p>【第11回】 有料老人ホームの運営管理（コンプライアンス、情報公開、第三者評価）</p> <p>【第12回】 有料老人ホームの目標管理と人事評価・研修</p> <p>【第13回】 福祉事業経営（その他諸問題）</p> <p>【第14回】 福祉事業経営（その他諸問題）</p> <p>【第15回】 福祉事業経営の将来と課題</p> |
| 受講生への要望 | 講義形式となるが、各講義の中で質問を受けることと、より理解を深めるために、議論の展開を期待します。 |
| 評価の方法 | 講義の受講とディスカッションへの参加、及びテストでのレポートの提出による評価 |
| テキスト・参考書 | <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各回の授業テーマに基づく教材を提供する <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『非営利組織の経営』 ドラッカー著 ダイアモンド社 |

授業科目

福祉施設経営特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 瓜巢 一美 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 社会福祉施設の運営から経営への視点転換の背景や経営管理の諸領域について、下記学習計画に基づいて、施設経営の実務視点で講ずることにより、社会福祉施設経営に携わる指導的人材となれるよう、実務的事例を多く用いながら講述する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 社会福祉施設の運営視点が経営視点に変化しなければならない経営環境条件を研究するとともに、社会福祉施設が新しい経営環境のなかでその使命を全うするための経営技法等を研究する。経営と運営の概念上の差異、経営成果としての3S（利用者・職員・経営者の満足）、施設経営と経営倫理、地域社会との連携、経営競争における差別化・ブランド化等契約時代の社会福祉施設が「選ばれる施設」であり続けられるための経営指標、業績管理、組織・労務管理等について、社会福祉施設の運営実態等を参考にしながら、実務的、実践的に研究する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】社会福祉施設経営化の要因</p> <p>【第2回】社会福祉施設のあゆみ及び使命</p> <p>【第3回】社会福祉施設の種類と機能</p> <p>【第4回】経営・運営・管理の概念構造</p> <p>【第5回】社会福祉施設の組織管理</p> <p>【第6回】社会福祉施設の人事・労務管理</p> <p>【第7回】社会福祉施設のサービス管理</p> <p>【第8回】社会福祉施設の危機管理</p> <p>【第9回】社会福祉施設の安全管理</p> <p>【第10回】社会福祉施設の情報管理</p> <p>【第11回】社会福祉施設の戦略管理</p> <p>【第12回】社会福祉施設の経営（その1）</p> <p>【第13回】社会福祉施設の経営（その2）</p> <p>【第14回】社会福祉施設の経営（その3）</p> <p>【第15回】社会福祉施設の経営（その4）</p> |
| 受講生への要望 | 予習・復習を必ず行うこと |
| 評価の方法 | 出席20、受講態度10、レポート・試験70 |
| テキスト・参考書 | <p>[テキスト]</p> <p>・瓜巢一美著「社会福祉施設経営学」文化書房 博文社</p> <p>[参考書]</p> <p>・社会福祉六法（新しいもの）</p> <p>・講義時にその都度説明する</p> |

授業科目

■ 人事労務管理特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 森田 隆夫 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2（選択） |
| 学修目標 | 現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的実務的に研究する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理</p> <p>【第3回】 人事管理の基本的事項の概説</p> <p>【第4回】 労務管理の意義</p> <p>【第5回】 労務管理と労務法制</p> <p>【第6回】 労働契約法のあらましⅠ</p> <p>【第7回】 労働契約法のあらましⅡ</p> <p>【第8回】 労働契約法のあらましⅢ</p> <p>【第9回】 労働基準法のあらましⅠ</p> <p>【第10回】 労働基準法のあらましⅡ</p> <p>【第11回】 労働基準法のあらましⅢ</p> <p>【第12回】 労働組合法のあらまし</p> <p>【第13回】 労働関係調整法のあらまし</p> <p>【第14回】 労働関係判例の動向等Ⅰ</p> <p>【第15回】 労働関係判例の動向等Ⅱ</p> |
| 受講生への要望 | <p>予習、復習を行うこと。質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きたい。</p> <p>学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。</p> |
| 評価の方法 | 提出課題の内容により判断する。 |
| テキスト・参考書 | <p>[テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇山勝儀・小林理 編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年 ・「社会福祉六法」(最新のもの) <p>[参考書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時にその都度説明する。 |

授業科目

福祉事業経営研究・演習（内容変更の場合あり）

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 科目担当教員 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 福祉事業経営における市場分析の基礎知識としてアメリカのエイジレスマーケット書を学ぶ。次に具体的福祉事業経営の事例を前橋市内の事業者を見学する事によって学ぶ。最後に事業を立ち上げるスタディーを試みる。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 1. エイジレスマーケット書を学ぶ 2. シルバーサービス調査（前橋市内、各シルバーサービス事業者を見学） 3. シルバーサービス事業立上げのポイント演習（市場分析、事業収支作成） |
| 授業計画 | 【第1回】 エイジレスマーケット（第1部、第1章） 【第2回】 エイジレスマーケット（第1部、第2章） 【第3回】 エイジレスマーケット（第1部、第3章） 【第4回】 エイジレスマーケット（第2部、第4章） 【第5回】 エイジレスマーケット（第2部、第5章） 【第6回】 エイジレスマーケット（第2部、第6章） 【第7回】 エイジレスマーケット（第3部、第7章） 【第8回】 エイジレスマーケット（第3部、第8章） 【第9回】 エイジレスマーケット（第4部、第9章） 【第10回】 エイジレスマーケット（第4部、第10章） 【第11回】 エイジレスマーケット（第4部、第11章） 【第12回】 エイジレスマーケット（まとめ） 【第13回】 シルバーサービス調査（進め方） 【第14回】 シルバーサービス調査（カルチャーセンター） 【第15回】 シルバーサービス調査（カルチャーセンター） 【第16回】 シルバーサービス調査（フィットネスセンター） 【第17回】 シルバーサービス調査（フィットネスセンター） 【第18回】 シルバーサービス調査（在宅サービス事業者） 【第19回】 シルバーサービス調査（在宅サービス事業者） 【第20回】 シルバーサービス調査（有料老人ホーム） 【第21回】 シルバーサービス調査（有料老人ホーム） 【第22回】 シルバーサービス調査（訪問看護・老人保健施設） 【第23回】 シルバーサービス調査（訪問看護・老人保健施設） 【第24回】 シルバーサービス調査（特別養護老人ホーム） 【第25回】 シルバーサービス調査（特別養護老人ホーム） 【第26回】 シルバーサービス調査（非営利団体事業） 【第27回】 シルバーサービス調査（非営利団体事業） 【第28回】 前橋市内における福祉事業起業化スタディー 【第29回】 前橋市内における福祉事業起業化スタディー 【第30回】 まとめ |
| 受講生への要望 | 演習を通じて福祉事業経営の市場分析の基本を学ぶと共に、事例見学、調査を通し事業立上げ計画スタディーまで挑戦してほしい。 |
| 評価の方法 | エイジレスマーケットでは、書の内容解説レポート提出と議論によって理解を深めると共に、調査でも質問状、報告レポート作成によって福祉事業経営を理解する事につながる事に重点をおく。 |
| テキスト・参考書 | 【テキスト】 『エイジレスマーケット』 デビッド・B・ウルフ著 1996年中央法規出版 【参考書】 『シルバーウエルビジネス』 総合ユニコム 『日経ヘルスケア21』 日経BP社 |

授業科目

■ 地域福祉経営特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 笹澤 武 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 地域包括ケアを理解し、さらに地域包括支援センター等における支援内容や支援方法を理解することを目標とする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 地域包括ケアや地域包括支援センターの支援について学習し、地域における支援の実際について学ぶ。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 地域包括ケアの仕組み・方法論</p> <p>【第3回】 地域包括ケアの事例研究</p> <p>【第4回】 地域包括支援センターの現状と課題</p> <p>【第5回】 地域包括支援センターの支援の事例研究</p> <p>【第6回】 他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題</p> <p>【第7回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第8回】 他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</p> <p>【第9回】 地域福祉の概念</p> <p>【第10回】 地域福祉と地域住民・地域コミュニティ</p> <p>【第11回】 地域福祉と市町村社会福祉協議会</p> <p>【第12回】 地域福祉と福祉サービス提供民間組織</p> <p>【第13回】 地域福祉と市町村行政、制度的協議機関</p> <p>【第14回】 地域福祉と民生委員・児童委員</p> <p>【第15回】 地域福祉の財源と共同募金</p> |
| 受講生への要望 | 修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。 |
| 評価の方法 | 提出課題の内容（100%）により判断する。 |
| テキスト・参考書 | 基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 |

授業科目

■ 社会福祉行財政特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 高井 健二 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や地方自治体のかかえる社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策のあり方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 最新の厚生労働白書を基本テキストとして、社会福祉行財政をとりまく今日的な課題を読み解いていく。また、自治体や施設など現場の状況を肌で感じることができるよう、具体的な資料にあたるほか見学又はヒアリングの機会を設ける。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 自治体における社会福祉行財政の実情（事例を通して）</p> <p>【第3回】 社会福祉の基本的枠組みと現下の課題（1）</p> <p>【第4回】 社会福祉の基本的枠組みと現下の課題（2）</p> <p>【第5回】 厚生労働白書を読む（1）</p> <p>【第6回】 厚生労働白書を読む（2）</p> <p>【第7回】 厚生労働白書を読む（3）</p> <p>【第8回】 厚生労働白書を読む（4）</p> <p>【第9回】 厚生労働白書を読む（5）</p> <p>【第10回】 厚生労働白書を読む（6）</p> <p>【第11回】 厚生労働白書を読む（7）</p> <p>【第12回】 厚生労働白書を読む（8）</p> <p>【第13回】 社会福祉の現場を学ぶ（1）</p> <p>【第14回】 社会福祉の現場を学ぶ（2）</p> <p>【第15回】 まとめ</p> |
| 受講生への要望 | 自ら調べ、考え、意見を述べ、聴くことで、主体的にかつ相乗的な学習が行えるよう心がけてほしい。 |
| 評価の方法 | 出席点20% 発表、発言等30% レポート50% |
| テキスト・参考書 | 平成26年版厚生労働白書、その他講義時に指定する。 |

授業科目

■ 地域福祉計画特論

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 川村 匡由 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 地域福祉経営としての計画の重要性を理解するまでを到達目標とする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 地域福祉の理論と地域福祉計画の策定・実施・進行管理を実証的に学ぶ。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 地域福祉の概念の整理</p> <p>【第2回】 地域福祉の動向と課題</p> <p>【第3回】 地域福祉計画の現状</p> <p>【第4回】 地域福祉計画の策定</p> <p>【第5回】 地域福祉計画の進行管理</p> <p>【第6回】 地域福祉計画の事例研究①</p> <p>【第7回】 地域福祉計画の事例研究②</p> <p>【第8回】 地域福祉計画の事例研究③</p> <p>【第9回】 地域福祉計画の事例研究④</p> <p>【第10回】 地域福祉計画の事例研究⑤</p> <p>【第11回】 地域福祉計画の事例研究⑥</p> <p>【第12回】 地域福祉計画の事例研究⑦</p> <p>【第13回】 地域福祉計画の事例研究⑧</p> <p>【第14回】 フリートーキング</p> <p>【第15回】 まとめ</p> |
| 受講生への要望 | 各市町村や社協の地域福祉計画を入手し、比較研究する。 |
| 評価の方法 | 基準：プレゼン30点、出席状況20点、レポート50点 |
| テキスト・参考書 | 川村匡由・地域福祉とソーシャルガバナンス・中央法規 |

授業科目

■ 地域福祉経営研究・演習

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 笹澤 武 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 基本講義1 「地域福祉への多角的アプローチ」</p> <p>【第2回】 基本講義2 「地域福祉の現状と今日的課題」</p> <p>【第3回】 テーマ講義① 「地域福祉の主要理論の系譜」</p> <p>【第4回】 テーマ講義② 「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」</p> <p>【第5回】 ～【第8回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第9回】 テーマ講義③ 『『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組』</p> <p>【第10回】 テーマ講義④ 「社会福祉の機能、資源の地域配置」</p> <p>【第11回】 ～【第14回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第15回】 自由討議、中間のまとめ</p> <p>【第16回】 基本講義3 「地方分権と地域福祉行政」</p> <p>【第17回】 基本講義4 「地域福祉と社会福祉協議会」</p> <p>【第18回】 テーマ講義⑤ 「地域福祉計画の系譜と課題」</p> <p>【第19回】 テーマ講義⑥ 「民間組織による地域福祉推進の課題」</p> <p>【第20回】 ～【第23回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第24回】 テーマ講義⑦ 「コミュニティソーシャルワーク」</p> <p>【第25回】 テーマ講義⑧ 「地域福祉ニーズ、その探求方法」</p> <p>【第26回】 ～【第29回】 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>【第30回】 自由討議、まとめ</p> |
| 受講生への要望 | 基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討論が行えるよう準備すること。 |
| 評価の方法 | レポート提出（70％）・発表（30％）で総合的に評価する。 |
| テキスト・参考書 | <p>[テキスト]</p> <p>『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法（第2版）』 （中央法規出版、2010年）</p> <p>[参考書]</p> <p>日本地域福祉学会編『地域福祉事典』（2006年中央法規出版）。</p> <p>岡村重夫著『地域福祉論』（光生館、1974年）</p> <p>大橋謙策『地域福祉』（放送大学教育振興会、1999年）</p> <p>三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』（全国社会福祉協議会、1995年）。</p> <p>『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』 （全国社会福祉協議会、2008年）</p> |

授業科目

■ ソーシャルワーク特論 I

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 新木 恵一 |
| 開講期 | 1 年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようにさせる。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | 個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 イントロダクション（講義）(①②該当) 講義の全体像について説明し相互理解による授業展開への理解を求める。</p> <p>【第2回】 治療モデル、環境モデル、生活モデル（講義・演習）(①②該当) 治療モデル、環境モデル、生活モデルについて講義し、各モデルの着眼点、考え方、介入の違いについて、事例の演習課題に基づいて討議する。</p> <p>【第3回】 ストレngthモデル（講義・演習）(①②該当) ストレngthモデルについて講義し、利用者の「強さ」に焦点化、アセスメントし問題解決の方法について、事例の演習課題に基づいて討議する。</p> <p>【第4回】 心理的アプローチ（講義・演習）(①②該当) 心理的アプローチについて講義し、演習課題に基づいて「心理社会的診断」と「暫定的目標の設定」の方法についてグループ討議による学習を行う。</p> <p>【第5回】 機能的アプローチ（講義・演習）(①②該当) 機能的アプローチについて講義し、演習問題に基づいてグループでクライアントの課題・ニーズや機関の機能を明確にし、ニーズとの関係で機関の機能を個別・具体化する。</p> <p>【第6回】 問題解決アプローチ（講義・演習）(①②該当) 問題解決アプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第7回】 危機介入アプローチ（講義・演習）(①②該当) 危機介入アプローチについて講義し、危機的状況への共感的理解とアセスメントについて、事例の課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第8回】 行動変容アプローチ（講義・演習）(①②該当) 行動変容アプローチについて講義し、事例演習課題をグループで討議することにより、相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第9回】 エンパワメントアプローチ（講義・演習）(①②該当) エンパワメントアプローチについて講義し、多次元でのアセスメントや多面的な支援、利用者自身がパワーを獲得していく過程を、演習課題に基づいてグループで学習する。</p> <p>【第10回】 組織におけるソーシャルワーク（講義）(①該当) 組織におけるソーシャルワークの意義と機能、援助の展開過程、ソーシャルワーカーの働きかけについて学ぶ。</p> <p>【第11回】 組織におけるソーシャルワークに関する演習（演習）(②該当) 事例の演習課題をグループで討議することにより、全体と個の理解、ソーシャルワーカーの働きかけについて学ぶ。</p> <p>【第12回】 チームアプローチ（講義・演習）(①②該当) チームアプローチについて講義し、事例の演習課題をグループで討議することにより、相談援助のプロセスを学び、利点と課題を学習する。</p> <p>【第13回】 地域におけるソーシャルワーク（講義）(①該当) 地域におけるソーシャルワークの方法を講義する。</p> <p>【第14回】 地域におけるソーシャルワーク I（演習）(②該当) 複数の市町村の地域福祉計画を比較して、それぞれの違いについてグループで討議する。</p> <p>【第15回】 地域におけるソーシャルワーク II（演習）(②該当) 仮想的な課題を設定し、そのために必要な調査の手順や調査票、社会資源マップをグループで作成する。</p> |
| 受講生への要望 | 修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することを望む。 |
| 評価の方法 | 主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。課題レポート内容で50%評価を基本とする。 |
| テキスト・参考書 | 基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 |

授業科目

■ ソーシャルワーク特論Ⅱ

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 真下 潔 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を主にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究（児童福祉） 3. 家庭支援の実際（現代の家族の変容） 4. 多職種連携 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 イントロダクション・ジョイニング</p> <p>【第2回】 テーマの設定と設計</p> <p>【第3回】 多職種連携と協働</p> <p>【第4回】 事例研究</p> <p>【第5回】 相談者への対応</p> <p>【第6回】 事例研究</p> <p>【第7回】 ケースワークの仕組み</p> <p>【第8回】 事例研究</p> <p>【第9回】 相談者の環境の特性</p> <p>【第10回】 事例研究</p> <p>【第11回】 親と子を取り巻く社会の状況</p> <p>【第12回】 事例研究</p> <p>【第13回】 「家族」を考える</p> <p>【第14回】 事例研究</p> <p>【第15回】 授業の総括</p> |
| 受講生への要望 | <p>積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。</p> |
| 評価の方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点40% 2. レポート60% |
| テキスト・参考書 | <p>テキストは特になし。講義のなかで補完していく。 これまでのテキストを活用したい。</p> |

授業科目

■ ケアマネジメント特論

| | |
|------------------|--|
| 担当教員 | 國光 登志子 |
| 開講期 | 1年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 複合的なニーズを有する高齢者、障害者、子育て支援ケースなどに対するケアマネジメントの基本的枠組みを理解し、他職種協働のチームケアが求められる実践課題を明らかにする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | ケアマネジメントの基本プロセスを学んだ上で事例演習を行い、ケアマネジメントシステム化への課題について討議する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 ケアマネジメントが求められる社会的背景</p> <p>【第2回】 ケアマネジメント発展の系譜</p> <p>【第3回】 ケアマネジメントの基本プロセス</p> <p>【第4回】 ケアマネジメントプロセスの重層的展開</p> <p>【第5回】 アセスメント方法論</p> <p>【第6回】 フォーマル、インフォーマル社会資源</p> <p>【第7回】 利用者、家族の主体形成とケアマネジメント</p> <p>【第8回】 要介護高齢者のケアマネジメント</p> <p>【第9回】 介護予防ケアマネジメント</p> <p>【第10回】 子育て支援のケアマネジメント</p> <p>【第11回】 精神障害者のケアマネジメント</p> <p>【第12回】 知的障害者のケアマネジメント</p> <p>【第13回】 低所得者のケアマネジメント</p> <p>【第14回】 マイノリティ住民に対するケアマネジメント</p> <p>【第15回】 ケアマネジメントの普遍的課題</p> |
| 受講生への要望 | 事前学習を前提とし、学習課題に対して討議に参加し、質問や意見を積極的に述べること |
| 評価の方法 | 授業への出席20%、討議への参加度30%、レポート提出50% |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト</p> <p>「対人援助職を目指す人のケアマネジメント Learning 10」 太田貞司、國光登志子 (株)みらい</p> <p>参考書</p> <p>「実務に役立つケアマネジメントハンドブック」國光登志子 中央法規 「四訂 居宅サービス計画作成の手引き」財団法人 長寿社会開発センター</p> |

授業科目

■ ソーシャルワーク研究・演習

| | |
|------------------|---|
| 担当教員 | 科目担当教員 |
| 開講期 | 1、2年次 |
| 単位 | 2 |
| 学修目標 | 1) ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2) ソーシャルワーク研究方法についてもさらに広く深く学ぶ。 3) 英語の論文が正確に読解出来るようにする。 |
| 講義の内容 (基本的枠組) | ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容をさらに深く理解するためにソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み吟味する。 |
| 授業計画 | <p>【第1回】 受験生の研究テーマ・関心と研究報告の方法等について話し合う</p> <p>【第2回】 基本的文献と研究課題の論文の検索法</p> <p>【第3回】 研究の進め方と研究成果発表の仕方</p> <p>【第4回】 ソーシャルワーク研究の課題と方法</p> <p>【第5回】 事例研究法の学習①</p> <p>【第6回】 同上 ②</p> <p>【第7回】 受講生の研究課題の先行研究論文の報告と討議①</p> <p>【第8回】 同上 ②</p> <p>【第9回】 同上 ③</p> <p>【第10回】 同上 ④</p> <p>【第11回】 同上 ⑤</p> <p>【第12回】 同上 ⑥</p> <p>【第13回】 同上 ⑦</p> <p>【第14回】 同上 ⑧</p> <p>【第15回】 前期授業の総括</p> <p>【第16回】 Encyclopedia of Social Work ターナーの論文の分担翻訳・報告①</p> <p>【第17回】 同上 ②</p> <p>【第18回】 同上 ③</p> <p>【第19回】 受講生の研究課題の先行論文の報告と討論⑨</p> <p>【第20回】 同上 ⑩</p> <p>【第21回】 同上 ⑪</p> <p>【第22回】 同上 ⑫</p> <p>【第23回】 同上 ⑬</p> <p>【第24回】 同上 ⑭</p> <p>【第25回】 同上 ⑮</p> <p>【第26回】 同上 ⑯</p> <p>【第27回】 同上 ⑰</p> <p>【第28回】 同上 ⑱</p> <p>【第29回】 同上 ⑲</p> <p>【第30回】 後期授業の総括</p> |
| 受講生への要望 | この授業はゼミ形式で進めるので十分事前準備をして授業に出席すること。また、授業受講生への要望中の討議に積極的に参加すること。 |
| 評価の方法 | ①出席点50% ②レポート50% |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト：国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)ポリシーペーパー[国際方針文書] 日本ソーシャルワーカー協会分担執筆 2011年1月 (日英両文)</p> <p>参考文献：田垣正晋著「これからはじめる医療・福祉の質的研究入門」 中央法規出版 2008年 上記書を使用する。</p> <p>その他読むべき文献は開講時に提示する。また各自が報告する論文等は必要に応じて用意する。</p> |

修士論文研究指導の概要

| | |
|------------|--|
| 中 田 勝 | <p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。</p> <p>福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。</p> <p>高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。</p> <p>我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p> |
| 鈴木 利定・中田 勝 | <p>我々の人生にとって大切な道德生活の基礎というべき意味において倫理道德の理論的実践両面について研究する。福祉倫理特論研究は、福祉倫理がどのようにして始まったか、現代を経て、将来は如何にあるべきか、その姿を研究し論証してゆく。即ち、人の道とした福祉倫理の原点より始めて、現代及び将来への持続を研究するものである。</p> <p>今日はまさに多文化の時代である。その観点を踏まえて、福祉に携わる指導者共通の福祉観とは何かについて研究してゆくものである。高潔な人格の養成は加齢により益々その輝きを増してゆく。その人格達成法について研究する。我が国上代の社会的秩序より生じた倫理より今日及び将来に至るまでの福祉倫理の特性についての研究を行う。</p> |
| 江島 正子 | <p>世界の各国と同様、現在、わが国においても社会は大きく変動しています。幼いこどもの一番大切な家庭生活も、保育や教育の現場も、又こどもの福祉の現場においても同じです。</p> <p>幼児教育の視点に立って、こどもの成長と発達のため何を解決しなければならないかを考え、いかにわれわれはその問題を解決できるかについて考察を加え、こどもに内在する「いのち」をもっとも尊重する援助のあり方を研究します。</p> <p>研究事例として以下のようなテーマが挙げられるでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) こどもの家庭生活と福祉について (2) 環境としての植物・園芸との関わり方について (3) 保護者と園との総合的考察について (4) 保育者をめぐる現代的課題について (5) ソーシャルアクションの試みとしての支援について 等々 |

| | |
|--------------|---|
| <p>笹澤 武</p> | <p>2000年に成立した社会福祉法は、これまでの国や行政を中心とした、いわゆる福祉サービス供給サイドからの措置行政であったものを、利用者サイドからの福祉サービス体系に転換することを目的とするものであった。特に、この中の第4条（地域福祉の推進）と第107条（市町村地域福祉計画）は、地方分権一括法の施行に関連して、地域住民が抱えている様々な生活問題や複雑化・高度化する福祉ニーズに対して、適切な利用促進等の「身近な福祉」を目的としたものである。研究指導では、地域福祉活動に対して積極的な住民参加を促進したり、都道府県や市区町村の福祉に関するユニークな事例を実態調査し分析して多面的・多角的側面から地域包括ケアを中心に研究する。院生は常に問題意識を持って論文作成に臨んでもらいたい。</p> <p>修士論文は修士1年4月から論文の書き方も踏まえて、個人指導を計画的に実施する。</p> |
| <p>大野 俊和</p> | <p>修士1年4月から毎週、週1回90分程度の院ゼミミーティングに参加できることを条件とする。</p> <p>その際、他の大学院生による進捗報告と研究報告があるがすべてに出席すること。</p> <p>4月のx面談を通じて、教員との話し合いの中で論文テーマを決定する。希望者の関心領域が心理学や社会学に近く、定量データを用いた実証的研究に関するものであることが望ましい。各自にアサインされた課題の発表と関連論文の発表を行っていくことになる。なお、修士1年から修士論文発表会での発表と修士1年3月の段階でのミニ修士論文の提出を義務とする。</p> |
| <p>白石 憲一</p> | <p>各自の関心や問題意識に基づき研究テーマを設定し、数量データに基づき、統計的手法を用いて仮説検証や政策提言に結びつくように指導を行っていく。研究テーマの決定、研究計画の策定、データの収集、データ分析、分析結果の検討、結論の導出、論文の執筆という修士論文作成の一連の流れの中で、個人指導を中心に計画的にサポートしていく。院生は主体的に研究に取り組んでいくことを期待する。修士論文の作成を目的として、研究報告に基づくディスカッションを積極的に行っていく。</p> |

